

<vol. 146 の記事>

- 2012 年度を終え・2013 年度を迎えるにあたり
- スポーツをとおしたいろいろな交流！ ^^！



## 2012 年度を終えるにあたり

### ■卒業おめでとう

この時期は、会員の方の移動が多くあります。小学校を卒業する子ども達は、クラブの活動も卒業し、中学校という新しい環境でスポーツをする子が多いことと思います。

中には、幼稚園の頃からサッカー広場やキッズテニス、のびのびスポーツなどに参加してきた子どももいます。長い間、クラブに参加してきてくれて、ありがとう！、そして、卒業おめでとう・・・

中学校で、それぞれ自分にあった部活を見つけて、スポーツを続けることを願っています。

### ■日本のスポーツはこのままでいいのか

東日本大震災以後、スポーツは社会で何の役にたつのかという問いが多く、スポーツ関係者の中で続く中、今年度は、大阪の部活での高校生の自殺、そして、女子柔道界のパワハラという二つの大きな問題が起きました。

TV朝日の宮嶋さんは、国内外のスポーツを長く取材されてきた経験から、次のような発言をされています。

- ・フィンランドの柔道ロンドン五輪代表からは「スポーツはコーチにやらされるものではなく、自分でやるものだから、体罰なんてありえない」と聞いた。
- ・スポーツで最も大切なのは、スポーツをする本人。「選手」という言葉は「選ばれた手」という意味で、これは監督が選んだ駒という意味を示している。「プレイヤーズファースト」は、日本では浸透しているとは言えない。
- ・指導者が、自分の思い通りにならない時に発揮する暴力手段が体罰。選手が自ら考え、工夫できるようにアドバイスをし、より高いパフォーマンスを求める動機づけをしていくのが、本当の指導者の仕事。
- ・システムも見直す必要がある。小学生や中学生は、地域の大会だけで十分ではないか。
- ・大学の研究者によると、欧州では16歳までの全国大会は行われておらず、日本は異常とのこと。
- ・小学生の頃から地区でトップをめざし、全国大会で優勝をすることを夢見る子どもたち。それをけしかける大人。
- ・子どもはスポーツに接する最初の段階で、楽しさや面白さを自分たちで感じる前に、一つの競技で「勝つこと」

ばかりを教え込まれる。

- ・身体の発達に応じて様々なスポーツを楽しみながら、自分に向くベストのスポーツを探すことができない。

### ■生涯スポーツは大人だけのことではない

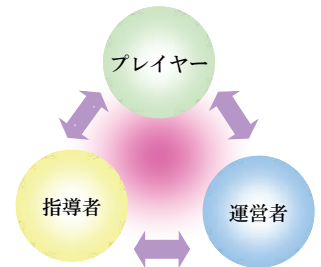
クラブでは、生涯スポーツの場の提供を掲げています。ただ、これは大人に限ったことではありません。

中学生や高校生とっても、部活以外でも好きなスポーツを続ける場が必要だと思います。そう考えると、学校の卒業おめでとう！ なのですが、本当はクラブと一緒にスポーツを続けてほしい、続けられる環境を用意したい・・・というのが願いでもあります。

クラブ先進地の欧州では、生まれてから死ぬまで同じクラブに所属している・・・ということがあるそうです。今、各プログラムに参加している大人の会員の方々にも理解が広がり、そんなクラブにしていければいいなと、卒業・入学のこの時期になると毎年のように思います。

### ■クラブのあり方

浦スポは、プレイヤー＝運営者、すなわち会員の互助組織として創られてきました。一人ではできないから、お金を出し合って組織をつくり、グラウンドや体育館を借りたり、施設を維持したり、用具を買ったりしています。



クラブが何をしてくれるのではなく、スポーツを自分達のものとして、参加している会員が自らお金と汗を流し、知恵を出して創っていくものが、スポーツクラブ・・・という考え方は、変わりません。

大人の活動であれば、指導者と会員がオープンな関係の中で、そのプログラムの時間をつくりあげていくことが目指す姿です。

子ども達のスポーツの環境を整えるのは、大人の役割です。クラブに預けた、指導者に預けた・・・ではなく、保護者の方と指導者、運営者が一緒に考え、取り組んでいくようにしていくことも大切です。

地域のクラブから新しいスポーツの姿を実現していくことが大切であることを肝に命じ、新年度をスタートしていきたいと思えます。

## クラブ内外でいろいろな交流

### ■廿日市（はつかいち）スポーツクラブと交流

文科省トップスポーツと地域の好循環プロジェクト事業の受託クラブ交流会で知り合った広島県廿日市市のNPO廿日市スポーツクラブさんに、サッカー生涯コースの有志11名が、2月9～10日に遠征をしてきました。

廿日市SCのシニアチームと、広島40sの2チームとの交流戦（写真上・中）を楽しんだ後、廿日市SCの施設、見学や、クラブ運営の勉強会（写真下）もしてきました。



これまで全国に3千数百のクラブができています。クラブ間の交流をとおして、会員同士も交流を深める機会になることや、他のクラブや地域のことを知ることで、自分達のクラブに活かしていくことを学ぶ機会にもなります。

クラブライフの新しい楽しみ方として、今後も他クラブとの交流の機会を増やしていけるといいですね。

### ■テニス交流大会

3月20日、駒場体育館テニスコートにおいて、クラブ主催のテニス交流会を開催しました。午前中は、親子テニス、午後は参加者をチーム分けして団体戦。ここでは、この夏、合宿交流を予定している長野県上田市のさなだスポーツクラブさんからも4名が参加してくださいました。



ふだん、曜日や技量ごとに分かれているテニスの各教室の方々の交流や、サッカー会員とテニス会員の交流、親子の交流など、様々な交流の機会になりました。



### ■親子キャッチボール・真下投げ教室

3月10日、浦和高校において、今回で4回目となる親子キャッチボール教室を開催しました。講師は、真下投げの発案者である伊藤博一先生。

約100名の参加のもと、熱心に真下投げに取り組んでいました。保護者の方がスポーツ傷害に対して正しい知識を持っていただく良い機会になりました。



## クラブからの情報発信ツール

- クラブニュース：過去のニュースはWEBに掲載
- facebook：<http://www.facebook.com/urawasc>  
facebookでは、クラブの昔の写真を公表しています。
- メルマガも配信始めました：  
無料です。携帯からも簡単登録。



子どものスポーツ支援プロジェクト2月分は、

¥ 93,100 —

をプロジェクトに送金いたしました。ご協力ありがとうございます。引き続きよろしくお願いいたします。



2012年度、浦和スポーツクラブは、総合型地域スポーツクラブ活動助成を受けて活動しています。